

2021年12月2日

高崎経済大学

第14回「熱血！高校生販売甲子園」実行委員会

第14回「熱血！高校生販売甲子園」初のオンライン大会

優勝は「万場高等学校」 チーム神流万場水産會

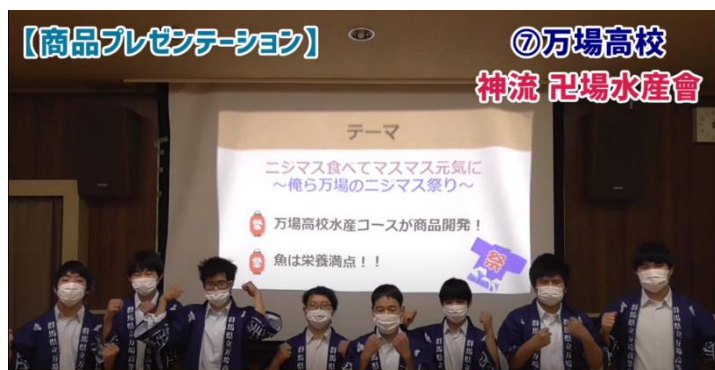
出場2回目で初優勝！ 神流町の名産を活かした商品を開発！

第14回「熱血！高校生販売甲子園」実行委員会(所在地:群馬県高崎市上並榎町 高崎経済大学内、実行委員長:加藤雄也)は、2021年11月20日(土)、21日(日)に第14回大会を動画配信し、11月28日(日)に結果発表および閉会式を公開しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、オンラインでの実施となりました。

審査員投票および一般投票を集計した結果、第14回「熱血！高校生販売甲子園」での優勝校は群馬県立万場高等学校に決定しました！

今回、万場高等学校がプレゼンテーションした商品は、「ファイヤーホネほね ～骨マシ・マシ～」、「マスマス笑顔にな～れ♡バーガー【STB】」、「神流みそマスドッグ」の3品。神流町の名産である「ニジマス」や「あかじゃが」を使用しており、地域に根ざした商品となっています。

優勝商品の詳細は別紙のとおりです。



優勝した万場高等学校のプレゼンテーションの様子



11月28日に公開した閉会式

第14回「熱血！高校生販売甲子園」優勝校について

1. 優勝校 群馬県立万場高等学校（群馬県多野郡神流町）

2. チーム名 「神流万場水産會（かなまんばすいさんかい）」

3. 優勝商品

※販売価格、個数は対面大会開催時を想定しています。今後、商品化を検討する際には実際の販売価格と異なる場合があります。

①神流みそマスドッグ

材 料：魚肉ソーセージ、ニジマス（神流町産）、玉ねぎ、片栗粉、たまご、ホワイトペッパー、みりん生地、ホットケーキミックス、牛乳

商品概要：持ちやすく、食べ歩きが出来る。ヘルシーでお腹にも溜まる、おやつにピッタリ。神流町の鯉のぼり祭りをイメージした形。表面には地元名産の伝田郷味噌で作った焼きまんじゅうのタレ。



神流みそマスドッグ（試作品）

販売価格：200円（対面大会時を想定）

販売個数：1日 100 個、2 日間で 200 個（対面大会時を想定）

②ファイヤーホネほね -骨マシ・マシ-

材 料：あかじゃが、ニジマスの骨、コンソメ、薄力粉

商品概要：地元特産のあかじゃがを使用。
味付けにニジマスの骨のふりかけ。カルシウムたっぷり。
神流町の恐竜の化石をイメージした形。



ファイヤーホネほね
-骨マシ・マシ-（試作品）

販売価格：150円

販売個数：1日 100 個、2 日間で 200 個

③マスマス笑顔にな〜れ♡バーガー【STB】

材 料：コロケ、ニジマスの燻製、牛乳、バター、生クリーム、コンソメ、塩・コショウ、玉ねぎ、卵、パン粉、薄力粉、バンズ、強力粉、ドライイースト、塩・砂糖、バター

商品概要：グラタンコロケの中にニジマスの燻製が入った商品。
パンの形は上から見ると魚の形になっている。
スマイル(スモーク)・トラウト・バーガー略して「STB」。
工夫した点はニジマスの存在をアピールするために燻製を大きめにほぐして入れたところ。



マスマス笑顔にな〜れ♡バーガー
（試作品）

販売価格:500円

販売個数:1日50個、2日間で100個

4. 商品化について

第14回大会では、対面販売ができない代わりに優勝商品を実際に商品化する計画を立てています。現在、万場高等学校および実行委員会にて協議を重ねており、詳しい情報に関しては後日発表します。

5. 参 考

●第14回大会について

①主 催 第14回「熱血／高校生販売甲子園」実行委員会

②企画・運営 第14回「熱血／高校生販売甲子園」実行委員会

③参加予定チーム数 7校7チーム(群馬県内高校のみ)

④大会概要 各チームは商品を企画し、オンラインにて商品のプレゼンテーションを行います。
「演出・地域性」の各評価項目の審査によって総合的に評価され、優勝を競います。
優勝したチームの商品は企業に委託したのち実際に商品化され、期間限定で街なかにて販売される予定です。

⑤大会理念 豊かな地域を作るために世代を超えた交流と、次世代を担う若者の育成を目的としています。

⑥大会コンセプト 「With CORONA With Community」

第14回「熱血／高校生販売甲子園」の開催にあたり、今大会は「With CORONA With Community」をコンセプトとして、「新たなカタチ」での大会づくりを目指します。

○With CORONA

新型コロナウイルス感染症により、昨年度は様々なイベントが中止や延期になり、販売甲子園も大会初の中止となりました。そのようななか、世間に浸透したキーワードが「With CORONA」(コロナとの共生)でした。これは、コロナ流行以前の生活に近づけつつ、コロナと共存できるようにするというものです。

○With Community

コロナ禍で、今までのような地域とのつながり方が難しくなりました。大会が中止になった1年は、実行委員が販売甲子園を見つめ直す機会になり、人とのつながりがなければ、販売甲子園は開催できないということを再認識しました。そこで地域の方々との新しいつながり方を模索し、今まで支えてきていただいた分の恩返しができるような「新たなカタチ」での大会運営を目指していきます。

●「熱血／高校生販売甲子園」について

2008年より群馬県高崎市・大手前通り(県道49号線)にて開催している「熱血／高校生販売甲子園」は、高校生が主役の商業祭です。出場する各チームがマーケティングや地域性を意識した商品を企画します。また、資金の範囲内で仕入れや販売価格の決定、販売方法などを創意工夫し、販売活動を行います。

各チームは売上、利益、接客、地域性、演出の各評価項目の審査と一般投票を加味した合計得点で優勝を競い合います。高校生が市場を意識し、利益を追求しつつ、接客やアイデアの評価を得られるのが大会の魅力でもあります。

【大会 HP】 <https://hanbaikoshien.net/>



●「熱血／高校生販売甲子園」実行委員会について

実行委員会は、高崎経済大学の学生約120名で構成されており、地域の方々と連携しつつ高崎の街なかを盛り上げます。「高校班」・「交流班」・「広報班」・「事務班」のいずれかの班に所属し、大会当日を成功に導くため、出場高校サポート、大会当日のステージイベントや交流会、広報活動の実施、大会の企画運営など、日々活動に専念しています。また、高崎市で開催されるイベント等でのボランティア活動を積極的に行うことで、地域の方々との交流を深めています。

大会初の中止となった昨年の第13回では、これまでの大会を振り返ることができる記念誌「つなぐ」を発行しました。当団体の原形である学生団体「dream」の結成と2008年の第1回大会をとりあげた「販売甲子園の歩み」、優勝校や商品が一目でわかる「各回大会紹介」、第1回～12回までに出場した全11都県の高校を紹介している「過去出場校マップ」のほか、販売甲子園に関わっていただいた地域・高校・出場高校生の方々への特別インタビューが掲載されています。ぜひご覧ください。

【記念誌「つなぐ」】 <https://drive.google.com/file/d/1dGkXVLvr7VpR85LUGRjZfMmulaWqajR2/view>



6. 問い合わせ先

第14回「熱血／高校生販売甲子園」実行委員会

実行委員長 加藤 雄也

Email: hanbaikoshien@gmail.com

以 上